

## 「ワークシート② 備蓄品の種類と量、場所を確認する」

学習のねらい：備蓄品の種類や必要量を、カテゴリー別に考える。

(活用例)

- ・家にある備蓄品について調べてきて発表させる。
- ・家に持ち帰り、家族と相談して記入する（家族への周知も図る）。

(指導上のポイント)

◆備蓄品の種類を確認し、注意点を讀ませ、備蓄品として適切な品物を理解させる。

次に、自宅の備蓄品について確認し、記入するよう指導する。

必要なものが十分用意されているかを確認させた後、自分が持てる分量はどのぐらいかなど視点を変えて考えさせる。

◆米をポリ袋で炊く方法、電気温水器のタンクの水を飲料水として使う方法等、工夫や知識によって備蓄に頼らなくても生き延びる方法があることを考えさせる。

### 防災ノート(ワークシート②) 中学生版

#### 備蓄品の種類と量、場所を確認する

あなたの家には、家族が1週間生き延びるために必要な備蓄品がどれだけありますか。

種類	具体的な品名と量	注意点
水	水 2ℓ × 12本	・大人は1日3ℓ、子どもは1日2ℓ必要です。 ・1ℓ=1kgですから、大量に持って避難することは困難です。
食料	乾パン 5缶 缶詰 10缶 レトルト食品 10袋	・1日に必要なカロリーは、大人で男性2500kcal、女性2000kcal、子どもは1500kcal程度です。 ・水や火を使わなくてもすぐ食べられるもので、かつ軽いものが選んでいます。
衣類	タオル 10枚 下着類 10枚 合羽 1着	・下着の替えやタオルも必要ですが、雨や寒さ対策に、雨合羽やジャンパー、セーターも必要です。 ・頭を保護するヘルメットなども用意すべきです。
日用品	トイレットペーパー 20個 懐中電灯 1個 絆創膏 10枚 食品用ラップ 2巻 ラジオ 1台	・トイレットペーパーやティッシュ、粘着テープは使い方によって大変便利です。 ・夜、避難するなら懐中電灯が、病気の人がいるなら薬が必須です。 ・ケガに備えて薬品やガーゼもあると便利です。 ・携帯ラジオを用意するなら電池も確保すべきです。

★備蓄品について、家族で話し合い感想を書きましょう。

例) 家族全員分の備蓄物資が不足していることが分かったので  
買いに行く。